清郷会新聞
きよさと
No.58　2014.10.18発行
社会福祉法人　清郷会
協和厚生園／日吉厚生園
九十九荘／十倉厚生園
デイとくら・輝／青空保育園
ワークわく・きよさと
TEL0476(93)1535㈹

十倉ハウス8月1日オープン

もくじ
特集『法人初級者研修』……2～3
青空保育園『青空保育園の保育参加』 4～5
十倉厚生園/デイとくら・輝『十倉ハウス&旅行』 6～7
日吉厚生園『バス旅行』……8～9
ワークわく・きよさと『職場実習他』 10～11
協和厚生園『協和の米どころ』……12～13
九十九荘『夏の思い出』……14～15
職員の動き・ボランティア募集・コラム…16

青空保育園　今年もたくさんのスイカの収穫ができました!

職員の動き

新規採用職員

工藤　祐佳里（青空保育園）
かわいい子ども達のパワーに負けず、頑張ります。

小林　美津枝（青空保育園）
毎日子ども達の笑顔に癒されています。

高橋　さくら（青空保育園）
青空保育園が大好きです。

高柳　貴之（協和厚生園）
PCでお困りの際は、お気軽にお声掛け下さい。

古原　嘉織（協和厚生園）
これからもよろしくお願い致します。

神崎　葵（十倉厚生園）
一生懸命頑張りますので、よろしくお願いします。

秋葉　洋美（九十九荘）
頑張ります。宜しくお願い致します。

退職者

上野　友紀（九十九荘）
これから利用者さんとコミュニケーションをたくさん取りながらいろいろな事を学ばせていただきたいと思っていますので宜しくお願い致します。

大竹　幸男（九十九荘）
皆様と早く仲良くなって仕事を頑張って行きたいと思います。

君和田　真理（協和厚生園）
浅野　亜弓（十倉厚生園）

ボランティア大募集

≪デイとくら・輝≫

当施設では知的・身体に障がいを抱えている方々に日中活動のお手伝いをしてくださるボランティアさんを募集しています。活動内容は、余暇活動や入浴後の簡単なケア（お茶出しや、身だしなみ）等です。週1～2回、また短時間でも結構です。

なるべく継続して頂ける方をお願いしたいと思っております。随時、見学も受け付けておりますので、ご興味のある方は、是非下記までご連絡ください。

富里市十倉2443　TEL0476－94－2104（担当 平野）

コラム

「ちょっと外に出てみてください。素晴らしいですから。」

10月8日の夜、遅くまで残って仕事をしていた私達に常務理事の三橋から声が掛かりました。呼ばれるまま協和厚生園前の園庭に向かった私達の頭上には、半分以上が欠けた大きな月の姿が映っていました。この日は皆既月食。目前で徐々に欠けていく月の姿は非常に幻想的でした。

そんな風情ある秋の夜の中、以前ある老人ホームに訪れた際に「10月の歌」というプリントがテーブルに置かれており、何気なくそこに書かれていた「もみじ」の歌詞を読んだ時、なんて美しい文章なのだろうと感嘆した事を思い出しました。

子供の頃は歌詞の意味も分からずにただ歌っていただけの詩も、大人になった今になり改めて読み返してみると、当時の情景や作詞者の思いが込められているのだなと感じた出来事でした。今宵の月も色々な感性が身についた、今だからこそ感じるものも多かったのでしょう。

日々の業務に追われる我々に気さくに声を掛け、冗談を交えながら話す三橋常務理事を前に、改めてその人間性とロマンチックな内面を知ると共に、四季のあるこの国の素晴らしさを想う貴重な時間でした。

法人初級者研修

第２部

『自分自身頑張っていること』をテーマに、ＢＳ法(創造的な発想を収集する為に量によって質を生もうとする手法)を使って、自由な意見を話し合いました。同じ法人職員といえども、乳幼児・高齢者・障がい者支援とお互いに違う職種ながらも、キャリアの同じ人たちが胸に秘めている思い等を共有できるように研修が行われました。

今回は法人初級者研修ということで、それぞれ、仕事に対し頑張っていることなどを話し合いました。違う職種であっても共通していたことは、毎日笑顔で子ども達や利用者の方と接することで、お互いに信頼関係や安心感を築き、関係を深めていきたいという思いでした。今後の保育では、今回の研修で改めて学んだ『個人との関わりの大切さ』を常に頭に入れ、子ども達だけでなく保護者の方とも深く関係を築いていきたいと思いました。

青空保育園　保育士　篠塚永

第二部ではＢＳ法を用いて思った事を言い合い、自分の考えや気持ちを出せる議題でした。皆、私の様に様々な不安を抱えていますが、それをどのように伝えるかが大切なのだと感じていますが、果たして、自分は利用者さんにきちんと伝える事が出来ているのかと、自問自答する事がありますが、支援員になったつもりでいる職員にならぬよう、これからも努めたいと思います。

協和厚生園　支援課　加藤和磨

今回の研修では、自由奔放に意見を話し合い、それぞれの意見を共有することによって気付いた事、支援者として何が大切なのかを改めて考えることが出来ました。利用者さんの特性や理解に近づけるように積極的に関わりを持つ事、その人らしく過ごして頂けるように寄り添った支援を心掛けていきたいと思います。また、私自身が支援員としての知識を身につけ学んだ事を生かしていけるように頑張っていきたいです。

ワークわく・きよさと　支援課　大堀穂菜美

8月22日(金)に、経験２年目までの職員を対象に法人初級者研修が行われました。各施設からそれぞれ参加し、計16名の職員が『支援』について体験や情報交換を目的に研修が行われ、休憩時には腰椎体操も実施。

全体的には、二部構成での研修にて、第1部では『支援体験』を経験し、第2部では『自分自身頑張っている事』をテーマに話し合いを行いました。

今回の研修を通してどのように感じたのか、代表で6名の方からコメントを頂きました。

第１部

『食事の介助・歯磨き支援』を自身で体験。普段自分たちが行っている支援を、今回は自分自身が実際に体験することで、改めて受け手側の気持ちを実感することができました。利用者が、安心して気持ちよく過ごして頂けるよう、相手への心遣い・気配りを基本に、今後の支援へと繋がるように研修が行われました。

私が、普段利用者さんに対して食事介助や歯磨き支援など何気無く行っていた支援でしたが、研修では相手から支援される側に立ち、不安がとてもありました。しかし、それを言い換えれば自分が不安に感じていた部分を利用者さんに対して行わない様に対応することで、利用者さんも不安に感じなくなると思いました。

研修を通して、改めて相手の立場に立って支援していく大切さを実感出来ました。

十倉厚生園　支援課　實川大輝

第1部での『食事の介助を体験する』では、「素麺」を題材に研修参加者が二人一組になって食事介助を行いました。介助側からすれば、箸を使って介助するより、細かくカットしてスプーンで提供する方が、介助が楽だと思います。しかし、それでは素麺を出す意味が失われてしまいます。食事介助一つをみても、介助される側の視点に立つ重要性を、あらためて理解することができました。

日吉厚生園　支援課　相澤寛典

研修を行い感じた事は、皆同じ思いで向き合っていると思いました。話し合いをして色々な考えを聞くことが出来、違う部分があったり同じ思いを持ちながら向き合っていたり、自分の中で新鮮だと感じた部分がたくさんありました。

学んだ事、感じ思った事をこれからも忘れずに向き合っていきたいと思います。

腰椎体操を学び、腰椎予防が出来たり、無理な介助は利用者の方も自分自身にも負担がかかってしまうと改めて思いました。様々な気付き・視点が大切だと思いました。

九十九荘　介護士(特養)　内田佳奈

今年度より、息子が青空保育園にお世話になっており、このたび、初めて保育参加させていただきました。

初めての保育参加、実はちょっとドキドキしていました。子供達が毎日どのような生活を送っているのか・・・お友達と仲良くしているのかな？笑顔でいるといいな・・・という心配はすぐに吹き飛びました。

朝の会の楽しい歌や手遊びに始まり、ホールや園庭では、教具・遊具を使って日一杯体を動かし夢中になって遊んでいました。満面の笑みで活動する息子の姿はほほえましく、大変嬉しいものでした。また、集団生活においてお友達に譲るということ、逆にトラブルも多い中で、先生方は子ども達のやり取りを見守り、丁寧に、時に厳しく指導してくださっておりました。

この保育参加を通じて、先生方のチームワークはもとより、毎日様々な活動を用意していただいていること、どの先生方も子供の安全と成長を願ってくださっていることを強く感じました。暖かく安心して子供を託せる環境を用意してくださっていること、本当に感謝いたします。ありがとうございます。

島岡奈緒美

子ども二人がお世話になっています。開園時に入園した子が、来春には卒園です。いつも家で大騒ぎなので、不安と期待で毎年ドキドキです。

歌やリズムで朝の会やお片付け、着席、移動、給食など園の互助や気配りに感心しました。年次が進み、お当番、配膳準備なども自分達で出来るようになっていました。

私の一番の心配は、運動会の練習でした。先生の指示でクラス全体がまとまってきている姿に、年長さんらしさを感じました。組体操の練習を見ていた時、「もう一回練習しよう。」と誰かが言うと、「やろう、やろう。」「ほら、集まって。」と自主的に子ども達が練習を始めたことには、胸を打たれました。「普段からですよ。」と先生のお言葉。

頼りないわが子もクラスメイトと頑張っていて、園での様子もわかり、親と子の大切な時間を共有できました。ありがとうございました。保育に参加したことで、家での声掛けの参考になっています。また来年も下の子の保育参加に参加させて下さいね。

内田富士子

青空保育園が開園して、4年の月日が経とうとしています。保育園の子どもたちは、皆保育園の名前通り「青空のような」と表現の出来る「すがすがしい、元気な」子どもたちばかりです。子どもたちは、自然豊かな園庭をのびのび駆け、体いっぱい遊んでいます。

生後8週から6歳児までの小学校就学前のお子さんをお預かりしています。私は看護師ですが、保育士さんと共に0歳児クラスの子どもたちと関わっています。保育園看護師ですので、医療的分野の介入が必要なときには、どのクラスの子どもたちのもとに飛んでいきます。そのため、敏速な判断能力を求められます。私の医療的知識のあらゆる引き出しをフル回転させなければなりません。日々、事例探究し常にアンテナを張った緊張感を持ち仕事をしております。

子どもたちが安心して過ごせる環境・場所づくりが使命だと考えています。

看護師　高島正子

青空保育園

保育参加

平成26年度　十倉厚生園家族参加宿泊旅行

９月９日（火）～１０日（水）、水上温泉方面へ１泊旅行に行ってきました。観光バス３台を貸切り、御家族を含む１３４名での参加となりました。出発時には天気が心配されましたが、現地では空も明るく１日目は「群馬サファリパーク」にて、ライオンやゾウなど普段見ることのできない動物を間近に見て、皆声を上げて喜んでいました。宿泊地の水上温泉で上質のお湯を堪能した後は、懇親会においしい料理やカラオケ・ゲームなどで盛り上がりました。２日目はリンゴ狩りで「津軽」のもぎたての甘さを大いに味わい、渋川ハイランドパークでは乗り物やお化け屋敷などで楽しみ、あっという間の２日間でしたが事故やケガ等もなく楽しんでいただく事ができました。帰りのバスの中では「また来年も行きたいね。」という声が聞こえていました。

デイとくら・輝　～家族参加　日帰り旅行～

9月18日(木)に、デイとくら・輝行事『家族参加日帰り旅行』が行われ、利用者14名（家族11名）とたくさんの方に参加して頂きました。コースは、『九楽での昼食　～　アクアワールド・大洗　～　めんたいパーク　』と茨城県大洗方面に行ってきました。当日の朝、8時出発といつもよりやや早い時間帯での支度に、もしかしたら寝不足気味の方がいるかも・・・と心配

しましたが、逆に今日の旅行を楽しみにし、職員も含め皆テンション高く意気揚々と出発！

曇り空でしたが、過ごしやすい陽気にて、一日トラブルもなく思いっきり楽しむ事が出来ました。
昼食に舌鼓を打ち、水族園では話題の“サメ”を探しながら盛り上がったり、“イルカ＆アシカオーシャンライブ”での迫力のあるショーに驚いたり大笑いしたりと満喫。終始、笑顔多い行事となりました。参加して下さった皆様ありがとうございます。

十倉ハウス OPEN

平成１４年に清郷会初のグループホーム(当時は生活ホーム)である、ほっとハウスがオープンしてから、１０年余り経ちましたが、平成２６年８月１日に清郷会４番目のグループホームとして、十倉ハウスをオープンすることが出来ました。

２階建ての建物で各部屋は個室となっており、定員５名で男性３名、女性２名の方が生活を始めています。建物の設計から三橋常務理事が携わり、入居者が安心して生活できるよう防災面も配慮されており、県内のグループホームでも珍しい、２階のテラスから非常時に避難することが出来る避難用スロープも完備されています。

入居者の皆さんは、昼間は日吉厚生園やワークわく・きよさとなどの各事業所に通われていますが、朝夕には広くて明るいリビングに自然と皆が集まり、入居者同士・世話人・生活支援員と一日の出来事を話し合ったり、にぎやかに食事をしたり、週末は外出等、施設での「集団生活」とは違った「個を重視した生活」を楽しみ始めています。

秋以降には、正面の庭に芝生を張り、さらに素敵な生活空間になっていく予定です。

支援課　主任　後藤　悠介

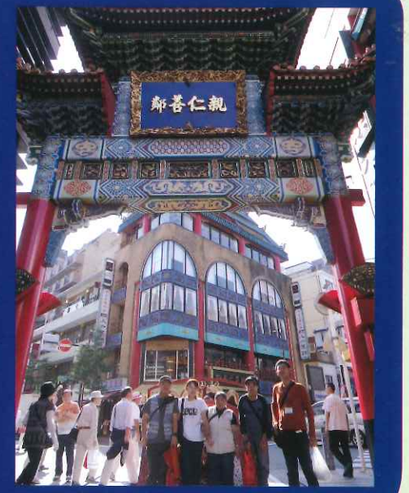
リビングでゆっくりとテレビ鑑賞中。

お風呂掃除にも取り組んでいます。

日吉厚生園 バス旅行

ハイ、チーズ!!

皆さん真剣です。



9月12日（金）に毎年恒例となっているバス旅行を行いました。保護者の方も参加しての旅行なので、家族で旅行を楽しまれた方も多くいました。前日まではゲリラ豪雨のような不安定な天候が続いていた為、当日の天候が非常に心配だったのですが、皆さんの日ごろの行いの成果でしょうか、旅行当日は非常に良い天気となりました。

横浜に到着してからはカップヌードルミュージアムでの見学と、オリジナルカップラーメン作りを行いました。オリジナルカップラーメン作りでは容器に好きな絵を描いたり、好きな具を入れたりと楽しく作ることができました。

昼食は中華街でコースメニューを食べました。中華ならではの回転式テーブルで、食事を回しながら皆でいただきました。午後は中華街を散策しました。お土産を買ったり、肉まんやアイス、ショウロンポウなどを食べ歩いたりと、それぞれに散策の時間を楽しんでいる様子が見られました。バスの中では旅行に大変満足されたようで、「次回はどこに行くのかな？」と、来年のバス旅行を楽しみにされている方もいました。

上手に描けたよ！

カメラの前ではちょっとおすまし

ワークわく・きよさと

職場実習

平成二十六年の四月から、ワークわく・きよさとを開所当初から利用していただいている利用者さん方の職場実習が始まりました。

主に畑仕事をやらせていただいていますが、農業とは過酷なもので無農薬であるならば日々の草取りも欠かせず行う必要があります。とても広大な畑の草取りを行わせていただいたりなどなど…。草取りは特に欠かさず行わなければならない事のようで、その土地に雑草が生えてしまうと十年間は雑草を完全に取り去る事は不可能といわれています。

一日の始まりは朝、私たちより早く出勤している従業員の方々に挨拶をすることから始まります。それから各々準備を済ませ実習に入ります。主に畑にて生姜の種を植えたり大根を収穫し、その大根を洗浄機械に入れコンテナへ積む等の作業と共に、実習終了時に実習先の方に準備していただいた休憩所の清掃を行います。その実習の中で利用者さん達は確実に成長なされています。挨拶を出来るようになったり、雑草と葉生姜の区別がつくようになったり、一番驚いたことは御自身で考えていただけることが多くなったことです。職員から「～はどうしたら良いですか？」と尋ねると「～します」と御返答をいただけたりと、施設内の作業も基礎的な事を学んでいただけるには適切かもしれませんが、社会で実際に働いていただけるようになる為には、やはり実習を行っていただき経験していただくことが大切であると感じました。仕事の事だけでなく他者への気遣いも社会では必要です。その点も確実に成長していただけている様子で、他の利用者さんの事を労ったりする方もいらっしゃいます。少しずつではありますが成長なされている様子を見られて私も嬉しく感じます。これからも社会人としての活躍を期待しています。

今年の九月からは職員の付き添いも外れ利用者さんのみで頑張っていただいていますが、職員が付き添っていた時と同様に仕事が行えているとのことである為、このまま継続して頑張っていただけたらと思います。

雑草取りをしています。

大根を洗っています。

ワークわく・きよさと

一泊旅行

七月十七日～十八日にかけて、ワークわく・きよさとの二回目となる一泊旅行へ行きました。今回は前回とは行き先は変わり静岡県へ。長いバスの道のりの中でカラオケを楽しんでいる姿は、日頃真剣に仕事をこなしている利用者の皆さんとは違い、なんだかホッとしました。

そして昼食の後は芦ノ湖の遊覧船です。大きいクルーザーにみんなで乗りました。芦ノ湖は魚種も豊富で透明度が高く環境的にとても良い湖だと言われていますが、まさしくその通りであり、澄んだきれいな水がとても印象的でした。利用者のみんなさんも喜んでいました。その後のホテルでの宴も大いに盛り上がり、一日目を終えました。

二日目は伊豆シャボテン公園へ行きました。動物園のようですが、普通の動物園とは一味違い、柵があまりなく動物が放されている事が多くありました。身近に動物と触れ合うことが出来て利用者さんも楽しそうでした。そして楽しかった一泊旅行も最後となり帰路につきました。一年に一度のワークわく・きよさとの旅行は大成功の後終了しました。来年もまた楽しみですね。

法人内不燃ゴミ収集

清郷会では不燃ゴミをワークわく・きよさとへ預けて分別・運搬・クリーンセンターへ捨てる活動をしており、施設内の清潔化にも一役かっています。当初は利用者さんも分別の仕方が曖昧でバラバラでしたが、最近では綺麗に分別する事ができており、成長を感じます。

仕事をしていくなかで、必要不可欠かと思われる「ゴミの分別」という作業は、施設内では経験できるようで経験できない事だと思います。また午前中の九時半～十二時の間に終わるよう、時間を調整していかなければならないので、時間の調整力も身についていくかと思います。その点はまだみなさん苦手な様子なので、今後伸ばしていければいいかと思います。

『ほっと一息』

お米のスペシャリスト・作業主任
三橋　宏昭

今年もなんとか稲刈りが終了し、筆を執っている。2月下旬の種籾準備から始まり、3月の種まき・4月中旬の代掻き・4月下旬の田植え・9月の稲刈り、そしてその間の草刈りとあっと言う間の7ヵ月間であった。季節も移り変わり、鴨やキジの番（つがい）が雛を育て、小川にはメダカが群れで泳いでいる。皆さんの肌の色も春に比べて明らかに濃くなり、歴戦の勇者よろしくその姿はたくましく見える。酷暑の下での作業は身体にやや堪えたが、今ではそれも思い出となった。

生産量は協和・日吉厚生園の一年分の消費量には満

協和の「米どころ」メイドイン協和

おらさ園の田んぼだべぇ～

たないが、その人数を考えればやむなしか。米作りは、安心・安全なお米を提供するのはもちろんの事、いつ起こるかわからない非常災害時における法人施設の食糧の備蓄という面からも重要な意味をもっている。特に入所型施設においては、非常食・備品と並び食糧の確保は欠かせない。

作業は少数精鋭の利用者さんの活躍により成り立っている。出勤すると「今日は何やるの？」と利用者さんから作業内容の確認がある。利用者さん個々の希望・体調を考慮しながらの実施となるが、自然の中での作業は、室内作業の際よりも表情を生き生きとさせ、心地よい疲労感を与えてくれた。

これから勇者の皆さんとの慰労会。いったいどんな会になるか、今から楽しみである。

九十九荘

今回は、日帰り旅行と納涼祭を中心とした夏の思い出を紹介しますのでご覧ください。

梅雨空の中の日帰り旅行

去る6月24日、日帰り旅行にて香取市の水生植物園に出かけてきました。バスに乗り込み自己紹介が終わり、1人に1つずつおやつが配られる頃には曇り空が次第に悪化し時折雷も鳴る土砂降りの雨…。

予測できていたことでしたが皆さんがお楽しみの昼食はバスの車内にて頂きました。上幕の内弁当はとてもボリュームがありました。ついでに配られたおやつをポリポリ…。

「水の郷さわら」にて雨宿りすること1時間。天候が改善し足元もぬかるむことなく全員で水生植物園の散策をすることができました。花の咲き具合は7～8部といったところでしょうか。

パッと見て区別しにくいですが水辺に咲くのは「菖蒲」か「かきつばた」乾いた土地に咲くのは「あやめ」か「菖蒲」なのだそうです。ややこしいですね。

植物鑑賞だけでなく、飼育されているひよこを手のひらに乗せ暖かいまなざしで見つめるご利用者の姿がとても印象的でした。

年に1度の日帰り旅行。ご利用者にとって忘れられない1日となったのではないでしょうか。後日参加できなかったご利用者のご家族あてにも集合写真を貼り付けた葉書を送りました。来年度も皆様のご理解、ご協力のもと、楽しい旅行の企画をしていけたらと思います。

雨のち晴レルヤ

夏の思い出　2014.ver.

かき氷大会

9月4日

演歌歌手 上倉さん来荘

8月28日

納涼祭

7月27日

今年は記念すべき20回目の納涼祭でした。悪天候が予想されたため、外の会場で行われる催事が交流ホームで行われることになりました。納涼祭を楽しみにしてくださっている皆様の願いが通じ、天候の大きな乱れもなく外の出店や花火は予定通り行われました。

ボランティアさんによる華やかなフラダンス、大盛況だった抽選会、ご利用者の普段見ることができない笑顔がたくさんあふれていました。

暑い1日でしたが納涼祭に関わる皆様のお陰でとても楽しく司会の役目を終えることができました。

伊藤奈弥子
境　美智子